

第17回 三保連合同シンポジウム

内科系学会社会保険連合
外科系学会社会保険委員会連合（担当）
看護系学会等社会保険連合

総合テーマ 医療における働き方改革：医療現場からの提言に向けて

日時：平成29年10月30日（月）18:00～20:00
会場：フクラシア東京ステーション 会議室K

事前受付はございません。
当日多数の方のご来場をお待ちしております。

問い合わせ先：

〒105-6108 東京都港区浜松町2丁目4番1号 世界貿易センタービル 8F
一般社団法人日本外科学会内
一般社団法人外科系学会社会保険委員会連合
TEL:03-3459-1455 FAX:03-3459-1456 E-mail:office@gaihoren.jp

第17回 三保連合同シンポジウム

内科系学会社会保険連合・外科系学会社会保険委員会連合・
看護系学会等社会保険連合

総合テーマ 医療における働き方改革：医療現場からの提言に向けて

日時：平成29年10月30日（月）18：00～20：00

会場：フクラシア東京ステーション 会議室K

【シンポジウムのねらい】

電通の新人社員の過重労働による自殺をきっかけに、「働き方改革」への注目が日増しに強くなってきている。政府の「働き方改革実行計画」によって時間外労働の上限が示され、医師も時間外労働規制の対象に含められたが、「応召義務」などの特殊性に鑑み、規制の適用は5年間据え置きとなった。地域医療や救急医療への影響などについて議論を深める時間的余裕はできたその一方で、現実として病院勤務医の過労による自殺が次々に報道されるとともに、一部医療機関に労働基準監督署からの厳しい指導が入り始めている。医師の時間外労働に関しては、行政のみならず医療機関の管理者、病院勤務医、開業医、各種団体から様々な意見が発信され、医師の働き方のあるべき姿について結論を得ることは決して容易ではない。

今回の三保連シンポジウムでは、患者目線で適切な医療を持続的に提供するための、医師・看護師の時間外労働のあり方を中心に意見交換を行い、医療現場、特に個々の医療者と病院管理者の認識を共有し、行政への提案をまとめるための一助としたい。

【プログラム】

1. 開会の挨拶（18：00～18：05）

岩中 督（外保連会長 埼玉県病院事業管理者）

2. 講演（18：05～18：50）

司会：岩中 督（外保連会長）

1) 内科系領域における「働き方改革」の問題点と提言（15分）

蝶名林 直彦（内保連理事 聖路加国際病院呼吸器センター特別顧問）

2) 看護師の働き方の実態と Work-Life Balance 実現への取り組み（15分）

木村 弘江（看保連監事 国立国際医療研究センター病院理事長特任補佐・看護部長）

3) 日本外科学会外科医労働環境改善委員会からの提言（15分）

松居 喜郎（日本外科学会外科医労働環境改善委員長 北海道大学大学院医学研究科循環器・呼吸器外科学教授）

3. 総合討論（19：00～19：45）

司会：工藤 翔二（内保連理事長）、井部 俊子（看保連代表理事）、岩中 督（外保連会長）

4. 特別発言（19：45～19：55）

山口 俊晴（前外保連会長 公益財団法人がん研究会有明病院病院長）

5. 閉会の挨拶（19：55～20：00）

瀬戸 泰之（外保連会長補佐 東京大学胃食道外科教授）

【抄録】

1. 内科系領域における「働き方改革」の問題点と提言

蝶名林 直彦（内保連理事 聖路加国際病院呼吸器センター特別顧問）

厚労省や中医協では既に 2011 年頃から「働き方改革」の一環として勤務医の労働負担軽減策を検討してきてはいるが、医師の勤務内容が診療・教育・研究など一様でないことや応召義務などの問題が隘路となっている。

更に来年度から予定されている新専門医制度では、サブスペシャリティ研修や地域連携病院への派遣を絡めて、医師の勤務体制そのものも問題となっている。当日はこのような点についての問題や解決策について提案したいと考えている。

2. 看護師の働き方の実態と Work-Life Balance 実現への取り組み

木村 弘江（看保連監事 国立国際医療研究センター病院理事長特任補佐・看護部長）

日本看護協会は、患者の生命と健康を守り、安全な医療を提供するためには、看護職が自ら健康で働けなければならないという考えのもと、平成 25 年に「看護職のワーク・ライフ・バランス（WLB）推進ガイドブック」を発行しました。

今回、そのガイドブックの概略と、国立国際医療研究センター病院における看護師の夜勤・交代制勤務、時間外の労働時間及び人事労務管理、そして、WLB を推進するための取り組みと実態についてご紹介いたします。

3. 日本外科学会外科医労働環境改善委員会からの提言

松居 喜郎（日本外科学会外科医労働環境改善委員長 北海道大学大学院医学研究科循環器・呼吸器外科学教授）

外科医の減少が問題になってから久しいが未だ改善傾向ではない。従来外科医は「最後の砦」として、緊急手術も多数扱うことから、その勤務体制は過重であり、それこそが外科医らしいとされてきた感がある。

日本外科学会外科医労働環境改善委員会では時間外労働など労働実態を調査してきたが、当直後の通常勤務が常態化しているなど問題点も明らかになった。夜間・休日手術加算の施設基準のあり方や、麻酔科との関係など取り組んできた外科医労働環境への提言を行う。

4. 待ったなし、医療現場の働き方改革

山口 俊晴（前外保連会長 公益財団法人がん研究会有明病院病院長）

医療現場の実情は、①収支の悪化、②人手不足、③患者サイドの要求の拡大、などから全く余裕のない状態であることは間違いない。しかし、これを言い訳に医療労働者に過大な負担をかけ続けることもできない。小手先の工夫や、思い付きだけではこれを解決することはできない。必要なのは医療者の自覚と管理者の決断である。

がん研究会有明病院はチーム医療の導入により、効率の良いハイボリュームセンター目指して努力してきた。我々の試みを紹介する。

